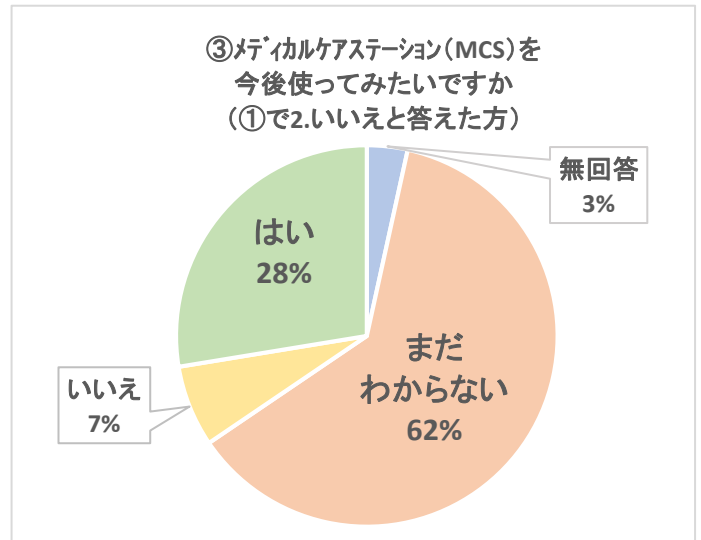
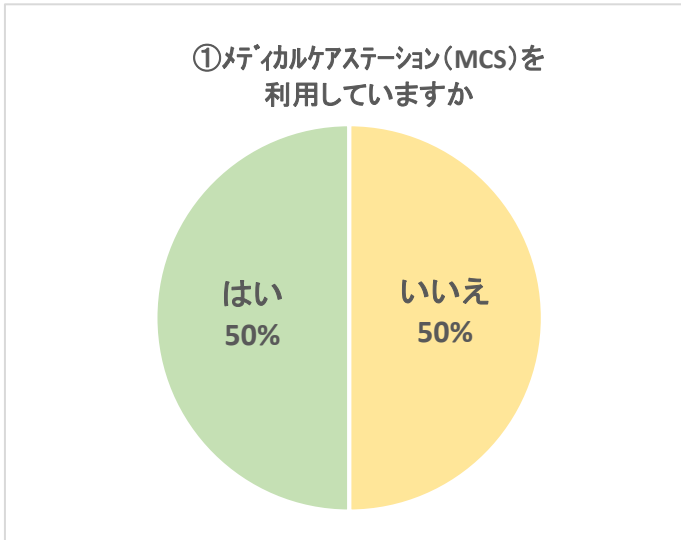


事業所：居宅介護支援事業所・地域包括支援センター、訪問看護ステーション

事業所回答率：62% (39/63)

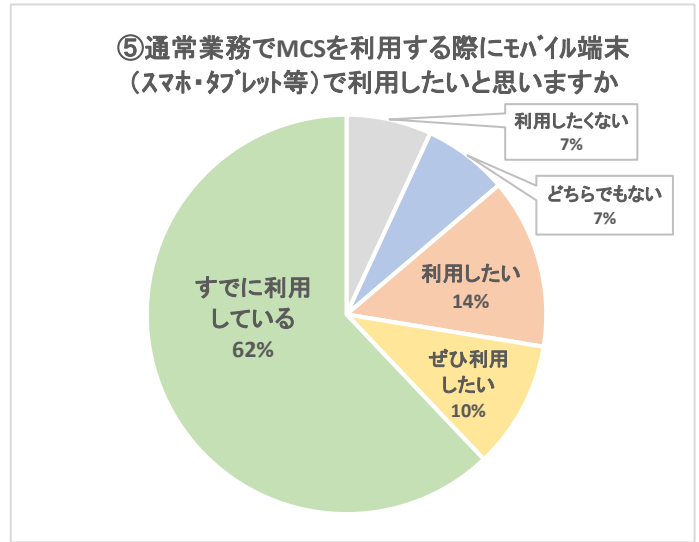
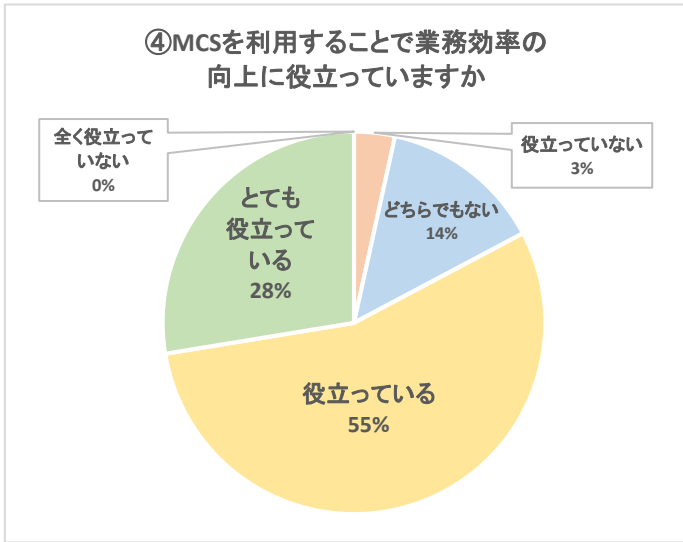


②利用していない理由

- ・MCSについてよく知らないから。訪問医によってはchatworkで情報の連携をしており、便利だと思っている。
- ・知識がなかったが、最近訪問診療を依頼した看護スタッフさんから説明を受けた。
- ・今のところ利用しなくても業務に支障がないので。
- ・必要性を感じていない。利用者が少ない為。必要とする利用者がいない。
- ・現状必要と感じていないから。
- ・利用したいが機会がない。情報共有を行うには便利なツールだと思います。
- ・MCSを使用している担当者がいない為。
- ・招待がなかったから。
- ・設備、環境の問題あり。
- ・訪問診療など自施設での利用が多い為、現時点ではMCS活用頻度が少ないと思われるため。
- ・初めて聞きました。月300円で医師と話せるツールですね。先生がMCSでと言えば入ります。
- ・現在訪問看護の利用は2例しかなく、メディカルケアステーションを利用する迄は至ってないが、今後在宅にて看取りする時には有効な利用と考える。
- ・町の個人情報管理規定により、インターネット上での個人情報のやりとりはできない。今のところ、電話連絡でタイムリーな情報共有はできており、MCSの活用の必要性を強く感じるケースがない。
- ・対象になるケース(利用者)がない。
- ・利用する機会がありませんでした。勉強不足なところもあり、地域ケア会議などで情報提供していただけるとありがたいです。
- ・情報セキュリティポリシー(基本方針)において、インターネット上での個人情報データの送受信に対応できていない。自治体間など、ローカルネットワーク以外、情報のやりとりができない。
- ・現在受け持ちの方にMCSを利用している人がいないため。
- ・スマートフォン携帯が1台しかないため。タブレット等電子カルテでなく紙カルテのみで稼働。
- ・MCSを使って情報共有するDrや関係機関がないため。

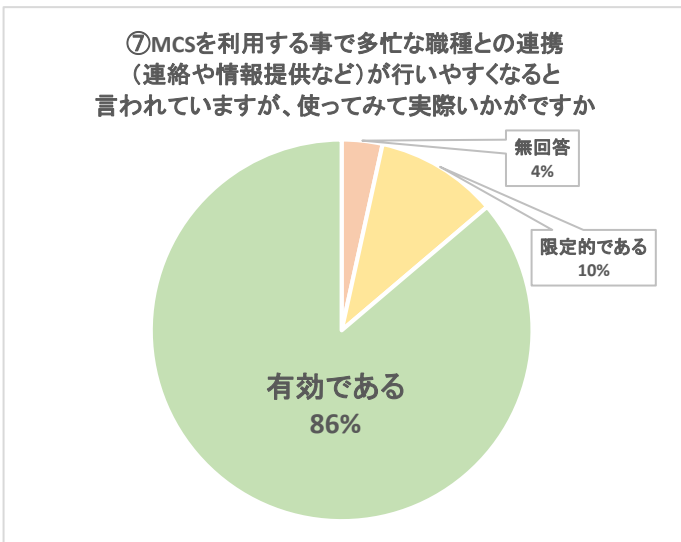
事業所: 居宅介護支援事業所・地域包括支援センター、訪問看護ステーション

事業所回答率: 62%(39/63)



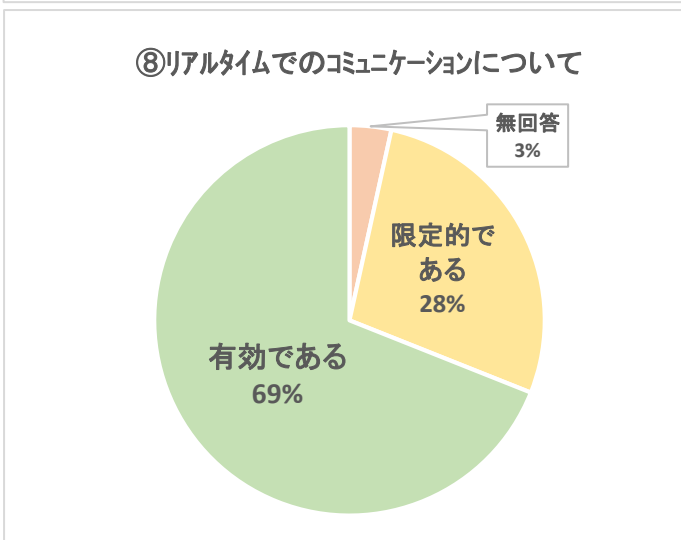
⑥MCSを利用して情報共有している患者(利用者)数について

	1~10人	11~20人	21~30人
現在の人数	20	0	1
最大時の人数	15	0	1



⑦限定的である理由

- ・緊急時は気付いてもらえない(相手も訪問中のため)。
- ・訪問看護なので、主治医が利用していないと処方してほしい物があった時など、結局他の方法で連絡が必要なのと、主治医への報告が一番多いから。

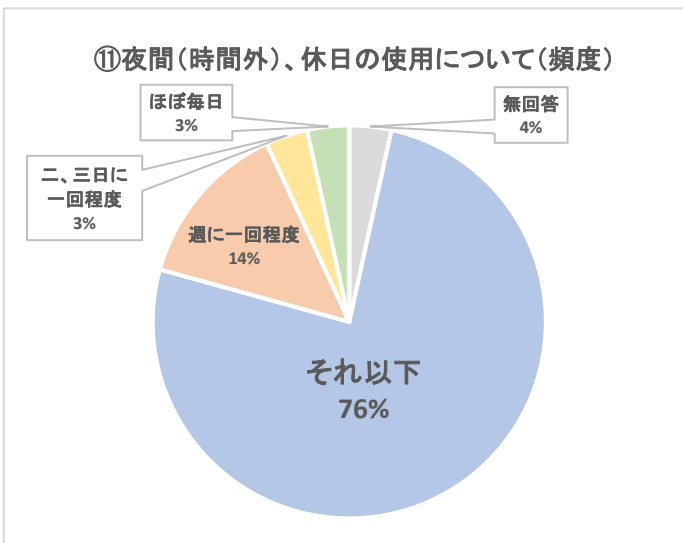
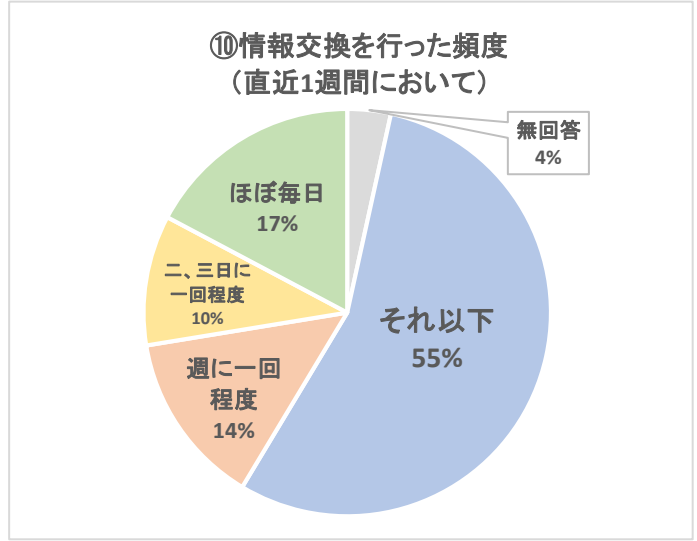
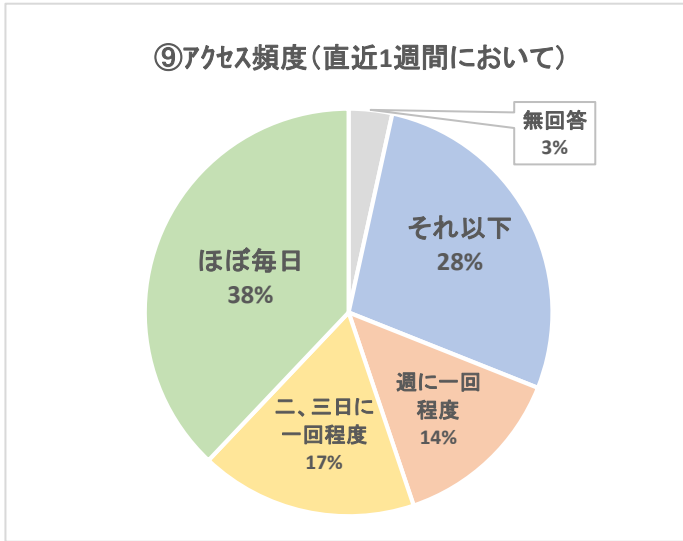


⑧限定的である理由

- ・タブレット、パソコンに台数制限あり持ち歩いていない。
- ・開庁時間の特定の時間限定のため。
- ・仕事をしながら使用しているため。
- ・オンタイムで見にくい。
- ・数時間かかる(返事までに)。
- ・コミュニケーションが取りたい相手が端末を持っていないとつながらない。

事業所:居宅介護支援事業所・地域包括支援センター、訪問看護ステーション

事業所回答率:62%(39/63)



⑫MCSを利用して多職種との連携を行うことについて良い点

- ・TELで報告を入れていた時は、忙しい時間を避けてTELを入れたり、時間をおくとTELLしそびれたり、報告が遅れる事もあったのですが、MCSだと自分のタイミングで入れられるので入力漏れがなくなる。
- ・訪看やDrの情報交換や意見交換を見られる。
- ・一度のアクセスで複数事業所と情報共有を行うことができる。電話連絡など、相手の都合を気にしなくて良い。口答でないのも、確実な情報伝達ができる。
- ・いつでもどこでも情報を受け取れるのが良い点です。
- ・症状の変化や治療方針や内容がタイムリーに把握できる。関わるサービス事業所が多いほど、情報連携がスムーズ。連絡調整など業務の効率化が図れる。
- ・終末期医療で携わらせていただきましたが、日々変わる病状の様子や、それに伴う対応や処置など、その日のうちに都度知ることが出来ました。福祉用具の準備や訪問入浴のタイミングなど、スムーズに導入に繋がるようアドバイス頂きました。
- ・一度に複数の関係者に連絡できる。写真等が添付でき、状態が分かり易い。連絡漏れが防げる。

事業所:居宅介護支援事業所・地域包括支援センター、訪問看護ステーション

事業所回答率:62%(39/63)

⑫MCSを利用して多職種との連携を行うことについて良い点(続き)

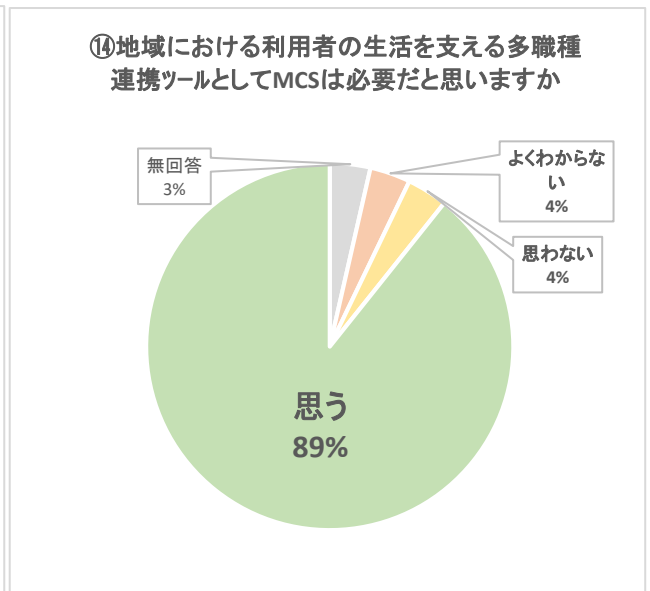
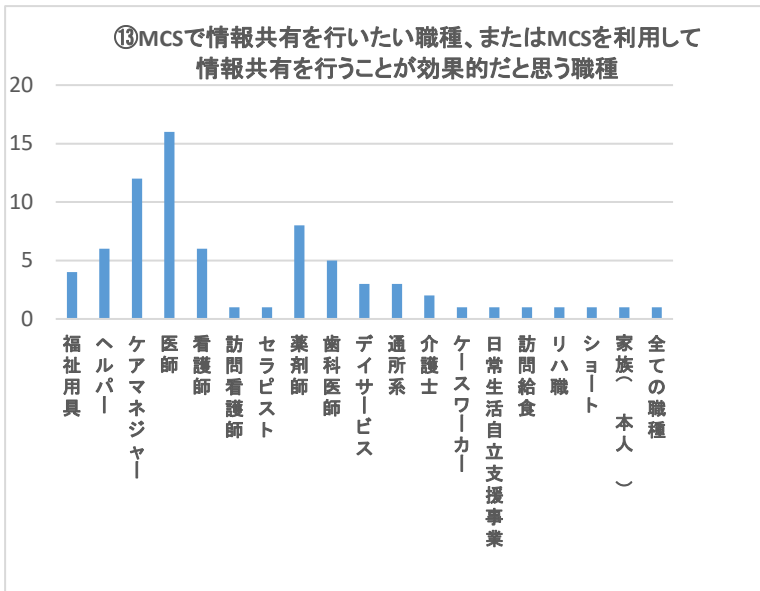
- ・医師や看護師との情報共有が早い。
- ・情報量が多い内容についても迅速に共有ができる。薬の変更などすぐにわかる。資料添付ができる。
- ・一括で共有したい時に活用しやすい。常に新しい情報を共有できる。イネで情報を見ている人が分かりやすい。
- ・本人の状態が詳しくわかる。電話以外で支援内容の変更など知らされる。
- ・情報の共有。身体状況を知る上でとても助かっています。
- ・他の意見や考え方を収集しやすい。
- ・Drとの連携がとりやすい。指示がリアルタイムである。利用者さんの訪問以外の行動がわかる。
- ・かかりつけ医、ケアマネと連携がとれるので良い。
- ・訪問時にその時の状態をすぐ報告できる。
- ・電話だとなかなかタイミングが合わないことがある。
- ・急ぎの内容でなければ時間の取れる時に入力ができる。過去の状況把握に活用できる。
- ・小さな情報もみんなで共有が行える。電話しなくて良い。時間に左右されない。
- ・情報共有ができる。申し送り事項が送りやすい(TELLなくてよい)。
- ・報告がスムーズでやり易い。
- ・急ぎでの用事でなく、一斉に情報を送りたい場合には有効だと思う。
- ・情報共有がすぐに来る。情報が記憶に残せる。主治医との連携が図りやすい。ペーパーレス。
- ・多職種との情報の共有がスムーズであり、指示や依頼などがタイムリーに行えることで、利用者様への負担が軽減される。

⑫MCSを利用して多職種との連携を行うことについて悪い点

- ・MCSに慣れていない事業所さんは、毎日閲覧してくれていますが、デイサービスのような、あまりパソコンなどに業務中に触れられない方は、情報が伝わっていないことがあった。
- ・報告内容に対し返答するか?ケアマネとして情報発信して良いのか?グループによって違うでしょうが、その辺りがよく分からず戸惑った。主体は医師なので、在宅介護サービスの話しばかりはできないなど感じる。ヘルパーやデイも入れるならと思うが、本人家族を超えて、根掘り葉掘り聞きにくい。
- ・確認漏れがないようにしないと見落としがありそう。その他特段悪い点は見当たらない。
- ・記録が手間(支援記録とMCS)。メールチェックに手間がかかる。
- ・ログインをなかなかしない人が居ると、手間が増える。
- ・時間差で確認不足など起こりやすく、一方的になる事があり、TELの方が便利な時がある。
- ・緊急性はないが周知しておきたい件等は遅くに報告があるため、みなさん多忙なのだと想像します。
- ・連絡を取り合える時間帯が選べない。端末を自由に使用できない。
- ・ケアマネジャーなど参加していても自分の携帯でないので全く参加していない。
- ・メールアドレス、パスワード入力が大変。
- ・文字に書き出して伝えるのが苦手だから伝わらないことも多い。
- ・返事がほしい時に少しは時間がかかる。仕方がないと思う。
- ・LINEのような利便性がない。人が増える程、投稿しにくくなる。顔がみえない。

事業所：居宅介護支援事業所・地域包括支援センター、訪問看護ステーション

事業所回答率：62% (39/63)



⑭理由

- ・効率が良くなる。TELやFAXで各所に伝達する手間がなくなるし、写真等も送れる。
- ・ケアマネジャー初任者は、依然医療職との連携にハードルの高さを感じている方が多い傾向にある。MCSが活用できれば、その垣根は若干低くなるとも考えられる。また、業務の効率化という意味では大きく期待できる。
- ・連携ツールとしては、文字で残る為、振り返り確認しながらの支援がスムーズに行える。活用はできていませんが、今後検討したいと思います。
- ・日頃からの多職種連携があれば、利用者の急変時の対応等がより早くでき、利用者にとってメリットがあるから。
- ・複数に電話して情報共有する時間ロスを省ける。複数事業所での情報共有が早い。後から参加しても、以前の記録を見れるので経過がわかる。
- ・情報共有が迅速にできるため。多忙な医師とスムーズにつながる事ができるため。
- ・個別ケースの情報共有では地域性はないが、グループワーク等を利用して地域特性や課題の共有ができ、結果的に地域に住まれる利用者様に役立つ連携ができると思う。
- ・相手の状況にかかわらず情報を送る事ができる。
- ・ツールの一つとしては有効と思われるが、機器等の管理方法などで制約があり、現状は使いづらい。
- ・独居の老人など、皆で支えられる。
- ・ケアマネ、介護系の方への情報提供(医療系の)ができるのがよい。
- ・医療介護連携のためには必要(情報交換のため)。FAXは時代遅れ。
- ・関係者がほぼ利用していると、情報共有が容易。
- ・即時性や翌日にも引き継ぐことが容易に行えるので。

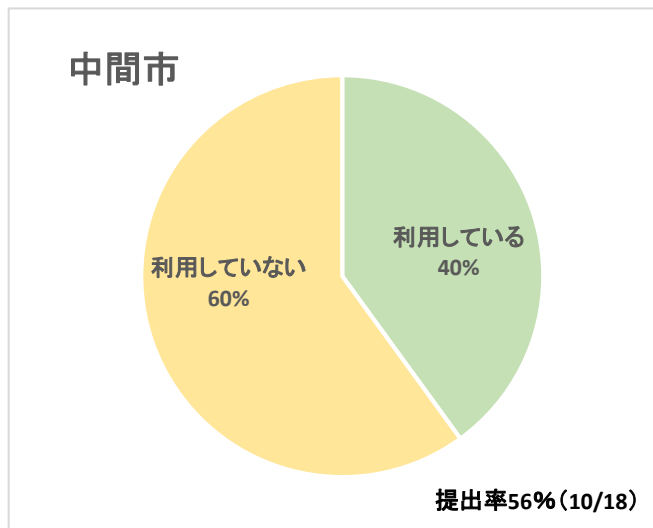
⑮その他MCSに関して気付いたことなど

- ・ターミナルや医療ニーズが高い利用者は、ケアマネとしては情報連携がスムーズで助かる良いシステムと思います。
- ・訪問診療、訪問看護を利用していないケースでも利用がすすめばと感じる。福祉用具事業者がメンバーに入っていない？
- ・参加している事業所が少ない。
- ・MCSを活用している訪問診療が限定的である。介護関係全体での普及率が知りたい。

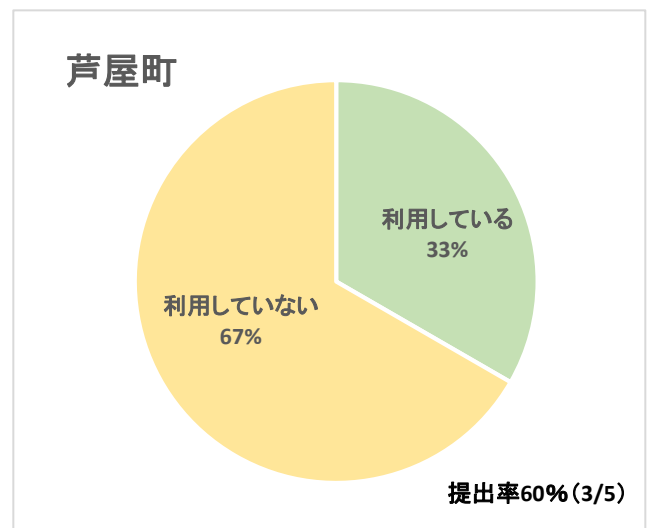
事業所: 居宅介護支援事業所・地域包括支援センター、訪問看護ステーション

事業所回答率: 62% (39/63)

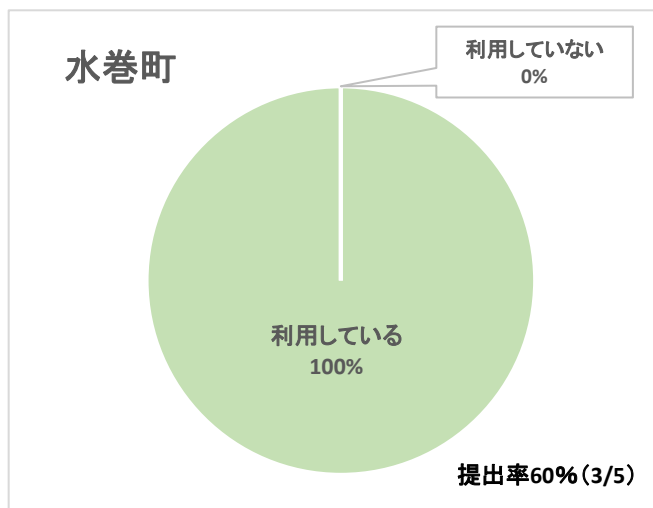
MCS ケアマネジャー利用率(地域別)



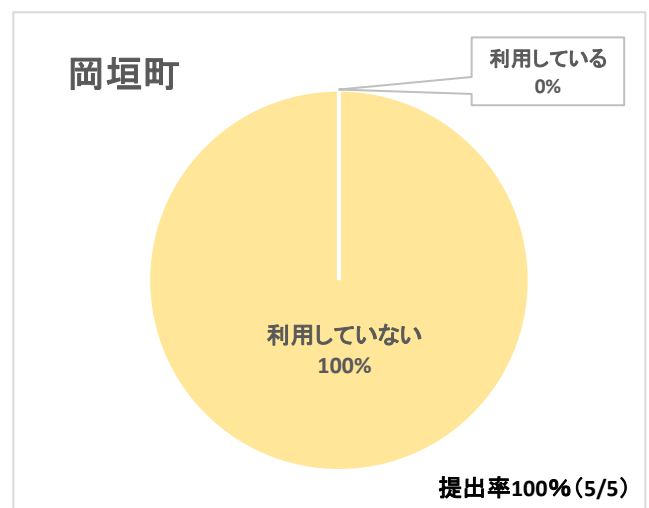
※包括は利用していない



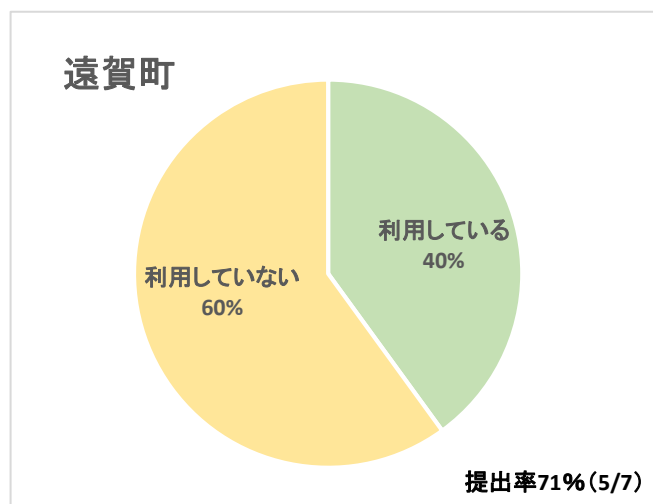
※包括は利用していない



※包括は利用していない



※包括は利用している



※包括は利用していない